

第6章 文化財の防災・防犯に関する課題・方針と措置

(1)現状・課題

糸魚川市地域防災計画には、文化財の防火・防災対策として耐震対策の促進及び防火施設等の整備促進を図ることとされています。しかし、過疎化、少子高齢化等による所有者・管理者不在の文化財が増えてきており、また、費用面で上記設備や防犯システムを導入できない所有者・管理者も多いのが現状です。さらに、市管理の施設でも、防火・防犯対策は取られているものの無人の施設もあります。文化財の保存にとって適切な環境の整理と防災・防犯の意識向上の必要があります。

最近の文化財とその防災、防犯に関する動きを以下に記述します。

加賀の井文書の一部は、寄託を受けて市で保管しており、平成 28 (2016) 年 12 月に発生した糸魚川市駅北大火の被害から幸いにも免れました。

「白馬連山高山植物帯」や「クモマツマキチョウ及びヒメギフチョウ生息地」などの貴重な動植物の生息、生育地の指定地では、捕獲、採取は禁止されていますが、罰則規定がないものもあることから抑止できていないなど、以前から動植物研究者に指摘されています。

「小滝川硬玉産地」「青海川の硬玉産地及び硬玉岩塊」「山之坊コスモクロア輝石露頭」は、原石、露頭の盗掘、破壊等をいかに防ぐかが課題です。現状、いずれも監視カメラによる防犯措置をとっているものの、実際には、抑止効果と盗掘者の特定のための機能しか果たしておらず、貴重な文化財の現状が確実に担保されるわけではありません。

また、指定区域外でヒスイ原石が新たに発見され、持ち去られてしまう事態を防ぐため、市民から情報があつた場合は、原石をその場所から安全なフォッサマグナミュージアム敷地等に移動する「ヒスイレスキュー」を実施しており、今後も同レスキューの継続はもちろん、市民との情報共有を図る仕組みを更に強化していく必要があります。



クモマツマキチョウ



ヒスイ原石 盗掘被害の痕跡
(杭が残っている)

- 防災・防犯のための体制の整備、訓練などの取組みが十分ではありません。
- 希少鉱物の盗掘や、クモマツマキチョウやヒメギフチョウなどの不法採集の対策が十分ではありません。
- ヒスイレスキュー活動の認知度が高くありません。

(2)方針

- ① 防火・防災・防犯体制を整え、所有者・管理者、市民の意識向上を推進します。
- ② 文化財の分散管理を促進します。
- ③ 環境生活課等と連携し、動植物の絶滅危惧種などの保存への取組を推進します。
- ④ ヒスイレスキューの周知化と更なる活動の強化を推進します。

(3)措置

番号	措置名	内容	事業主体				計画期間(年度)				
			行政	所有者等	学校・団体・企業等	市民	R6	R7	R8	R9	R10
34	文化財防火・防災・防犯マニュアルの作成	文化庁の「国宝・重要文化財(建造物)の防火対策ガイドライン」や「国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」を参考に文化財防災・防犯マニュアルを作成し、所有者等に周知	○	○							
35	文化財の防火・防災・防犯意識啓発	市民を対象としたパンフレットによる広報	○								
36	地区や活動団体の取組への支援	地区や活動団体による防災訓練等の活動に対する助言・指導	○		○						
37	防火・防災施設の整備促進	文化財の耐震対策や防火施設の整備を促進	○	○							
38	文化財の分散管理の促進	災害や盗難などへの対応として分散保管について所有者の理解を得た上で促進	○	○							
39	盗掘、不法採集を抑制する条例を設置	関係各課と連携し、盗掘、不法採集を抑制する条例の設置を検討	○								
40	ヒスイレスキューの制度化	指定範囲外でのヒスイ盗掘防止の観点から、レスキュー制度化を促進	○			○					